

はや七年経ちました

升島 努

過去を思う年代には、まだ早いと考えるのですが、教室の責任を負って、もう早くも七年目になります。少々疲れ気味です。今年は、ラッキーセブンの年、などと言う兆候は一つもなく、毎日、実験もろくに出来ない事にあきらめを感じながら、淡々と、かつ、書類に追われながら過ごしています。

振り返りますと、当初、五里霧中だった、ビデオ解析への踏み込み、その中で、悦ちゃん初めみんなの頑張りでも拓けた細胞動態解析への道、自分のやつつけ仕事で始め後を田村夫妻が進めてくれたビデオによるクロマト観察の道、いずれも、今では、皆さんが珍しがってくれて、それなりの評価を頂けているのではと思います。今年に入って何回、招待講演を受けたのでしょうか？結婚式のスピーチも、これも同じように、直前まで気が重いものですから、同じように数えてしまいますので、数え切れない位とおきましよう。中には2千人の方を前にして、あのエジプトの吉村さんと前後して話した時があれば、（どうしてテレビに出ていると、ギャラが高くなるのでしょうか。知名度ではなく、話しの中身では、負けなかったと思うのですが？（冗談です））50人の方を前にしたときもありました。でもどれも、ふうふう言いながらの講演でした。今年は、材料が、去年と余り変わり映えしないのに、一番苦労しました。その理由は色々ありますが、今年は教室全体で、糖尿病のモデル細胞として有力な新しい細胞に挑戦し、少し、データが止まったからです。でも今年も、職員・学生みんなはとても頑張ってくれて、色々なブレイクスルーをしてくれました。来年の薬学会などで、いよいよ初演発表することになります。

教室ではやらない、僕の物理的研究、今でも、X線光音響で発表する事があります。このお陰でノルウエーに文部省から行かせて貰いました。丁度、夏至の頃で、白夜のミッドナイトサンを期待しましたが、何せなかなか晴れない海岸の天気、今一すっきりした太陽を拝むことは希です。そのせいか、北欧の人は太陽に飢えている感じで、珍しい晴れの日には、川沿いの芝生にはビキニ姿が一杯、結構それでも寒いのですよ。美しい一番は、やはり切り立ったフィヨルドとそこから糸の様に落ちる滝、氷河の流れ込む山頂の湖(車窓の風景(写真))、帰りのロシヤ上空で見たミッドナイトサン、いずれも感激の一言でした。そして北欧のめだたない豊かさは、とてもいい感じ、人口が圧倒的に少ないこの国は、それ以外、何か人の良さといい、日本人と共通するものを多く感じもしました。物価の高さと共に…。さてこの分野は現在、工学部の助手として就職した育田君の分野となり、彼の作ったセルが、とうとう僕の作ったものを感度ではるかに凌ぐに及んで、最近実用化が着々と進んでいます。そういえば、同じ、僕の出身教室からしばらく身を寄せていた、谷川君、今は、つくばの融合研にポスドクで就職、僕とさほど違わな

い給料で、頑張っています。先日、その研究室を訪問、2ヶ月で原子間力顕微鏡によるDNA分子一個の写真を撮った所を見せて貰って、安心しました。大いに頑張ってくれる事と思います。

他の研究では、アロマセラピーの研究、田村ママが中心になり4年の杉本さんに、女子大の菅原先生が合流、石原さんが手伝って進みました。実習で、3年生に階段昇降などをやって貰い、仕事の前後での、香りの感じ方の違いをその沢山のデータから評価、簡易型の脳波計のデータなどと共に、味と匂いのシンポジウムで発表しました。我々の予想に反して、初めからポスターに多くの人がやってきて、びっくりし、反響の大きさに戸惑いました。ところが、残念なことに、この発表を前にして、田村ママが、教室の有志とともに、僕の友人が連れて行ってくれたスキューバダイビングの練習中に事故を起こし、長い間、意識不明の重体となりました。今は、奇跡的に回復、自宅でリハビリに励んでいます。完全回復にはもう少し時間が必要の様ですが、ともあれ、ほっとしました。僕も、事故の恐ろしさを痛感、甘く見ていた教室行事には、慎重になるようになりました。

もう一つ、来年の3月、R a z e e夫妻が帰国します。ラジー君は、キャピラリー電気泳動の新手法展開に目覚ましい業績を残し、学位を取ります。ハデミさんは、これも、液クロの前処理濃縮機構のビデオ解析で、修士課程を修了する予定です。二人の働きは立派で、教室の論文の稼ぎ頭です。来年は少し寂しくなりますが、イランで、E m a r a君と同様、大活躍してくれる事と思います。E m a r a君は運が良ければ、来年早々ラジー君が帰るまでの2、3ヶ月、学振の招きで、来日できるかも知れず、最後に、アラブ3人衆が、また一緒にすごせる時が来るかもしれません。

学科も変わって行きます。来年3月で、穂下先生、矢田先生が定年で退官されます。これから、辰巳先生（来年）、石橋先生（3年後）と第一世代の先生方が辞められて行きます。そんな中、我々、若い世代も次の世代の準備をしなくてははいけません。臨床薬学独立専攻設置は、今年は、保健学科の大学院設置で見送りでしたが、来年は学科も勝負の年です。

教室の来年の目標は、世界の土俵で確実に評価される基盤作りだと思っています。まだ、研究が、目新しくはあっても、あまいのです。

小澤君には、薬理分析分野で、そのきっちりした土俵の構築と成果を期待したく思います。そして、どっしりとした自信を持つようになるまで、頑張っ

って欲しく思います。田村君は、まず、実験をする人間になること。我々は実験をして自然と語るのですから。コンピューターはそれを理解したり、分かった後の予測には使えるでしょうが、これも、所詮ツールです。自分の足で歩く、その勇気と大変さと責任の大きさを知ってもらう事。コンピューターで、僕も含め、皆が頼りにするから出来ないのでしょうが・・・。

池田君には、ようやくつけた研究の自信を、今度は応用の場で花開かせて貰うこと。少し一人歩きできる様になった姿を、うれしく見えています。

学生のみannaには、どんな困難にも向かっていける自信を、自分の努力で積み上げて欲しいです。それはこれから低迷一方の日本では、高度な何かを持った人や会社しか生き延びれない、大変な時代に向かっていくからです。これは、今、社会に居る人達が一番感じて居ることでしょう。ベンチャー企業とも言える薬品会社、それなりに生き残ると思われませんが、これも、やり方を間違えると、一寸先は崖っぷちです。教室も実は同じ事ですけれども。

私はどうなんでしょう。こんなんでは、つまらないと思います。でも、人が育っていく姿を見るのはとてもうれしい事で、逆に不幸な姿を見るのは、いたたまれません。このあたり前が、教室関係の人だけには、後者が0であって欲しいと思っています。何か僕にでも出来ることがあれば言って下さい。研究は、教授室に顕微鏡やレーザーを持ち込んで、意気込みだけはノーベル賞を狙うつもりで、ささやかにやっています。ご安心を。

何年か内に、この田園通信を、インターネットでやりたいですね。今年は、インターネットで原稿を寄せてくれた人が多く居ました。年賀状もインターネット上に出す予定です。<http://www.pharm.hiroshima-u.ac.jp/> を見に来て下さい。

時代は、動いているのですね。そのフロンティアであり続けたい。その勇気をせめて持ち続けたい。それが、大学の義務の一つと思います。

教室がいつまでも、そうあり続けられますように・・・いつもながら。

平成7年 秋

